2026_1103「突然倒壊したシダレザクラ」日々の理科 4468 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

大学構内にある一本のシダレザクラが、今年９月、突然折れて倒壊しました。長年にわたって親しまれてきたサクラで、今年の春にも少ないながら美しい花を咲かせていました。私が附属小学校の教員をしていた時は、お弁当の日によくこの下で「ピクニック」を楽しんだものです。ところが、地上わずか 30～50cm ほどのところで幹が完全に折損してしまったのです。根元は地面にしっかり残っており、根ごと倒れる「根返り」ではなく、幹そのものが折れる「幹折れ」でした。

折れた幹の内部を調べて驚きました。木材は激しく「白色腐朽（白腐れ）」を起こし、まるでウエハースのように軽く、カサカサになっていたのです。指先で触れるだけで簡単に崩れ、木材本来の強さはほとんど失われていました。白色腐朽とは、菌類が木材のセルロースやリグニンなどを分解する現象です。長い年月をかけて宿主（しゅくしゅ）樹木内部の腐朽が進み、ついに自重や風などの力に耐えられなくなったのでしょう。

幹には、硬いサルノコシカケ型（木材腐朽菌）のキノコがいくつも発生していました。形態から「コフキサルノコシカケ類」と推定しましたが、原因菌の確定には詳しい調査が必要です。興味深いのは、内部がこれほど腐朽していても、外側の生きた組織が機能していれば花を咲かせられることです。樹木が生きていることと、幹が丈夫であることは別問題なのです。身近な一本のサクラが、菌類による木材分解と樹木の生命の不思議を教えてくれました。

（2026 年 10 月中旬／文京区お茶の水女子大学構内）

